

本日、1/12(火)

**原研労組 旗開き** を開催します。

20年・30年永年組合員の表彰も行います。

と き：1月12日(火)午後6時30分  
ところ：原子力科学研究所内 原研労 組合事務所  
内 容：委員長挨拶  
20年、30年永年組合員表彰  
執行部と組合員の懇談

**軽食を用意します。ふるってご参加下さい。**

## 2010年を迎えて -

日本原子力研究開発機構労働組合(原研労)中央執行委員長 岩井 孝

新年あけまして おめでとうございます

昨年は、自公政権から民主党中心の政権に交代するという大きな出来事がありました。自公政権が押し進めた「構造改革」は、国民に多くの痛みを与え、多数のワーキングプアを生み、貧困と格差の拡大をもたらして来ました。これを変えようとする多くの国民の期待が政権交代をもたらしました。これは大きな変化と考えます。

しかし、政権交代したからといって、よい方向に一気に進むわけではありません。私たちににとっては、小さな期待と大きな不安を感じる政権と言えるのではないのでしょうか。来年度予算をめぐって行なわれた事業仕分けでは、自公政権下での構造改革路線の継承のような議論や、十分な検討のないままにパフォーマンス的な結論も見受けられました。私たちは、国民に必要なことは何かを見極め、その実現のために奮闘する必要があります。

現政権の政策では、中央官庁の官僚の独立行政法人などへの天下り廃止については、一定の期待が持てますが、一方で抜け道も残されています。独立行政法人と公益法人については、廃止を含めてゼロベースからの見直しを進めようとしています。今後、私たちの職場にも大きな影響が出てくるのが懸念されます。

民間の給与水準の低下と公務員バッシングによる公務員賃金の削減の影響を受け、私たちの賃金は一時金を中心に大幅な削減を押し付けられてきました。ここ10年ほど、基本給についてはベースアップがない、あるいはマイナス改定が続き、一時金の水準も大幅に低下しており、年収ベースで10年前と比べて大幅に下がっています。これをなんとか上昇の方向に変えなくてはなりません。しかし、この状況は、原子力機構の中だけで運動していても変えられません。これから始まる春闘で、公務、民間の労働者が団結して運動を進めることが大切ですし、私たちもそれに積極的に参加していくことが重要です。

私たちの願う核兵器廃絶について、昨年、最大の核兵器保有国であるアメリカのオバマ大統領が核兵器廃絶をめざすことを言明し、明るいきざしが見えてきました。今年5月には、NPT(核不拡散条約)再検討会議が開催されます。一日も早い核兵器廃絶に向けて、私たちも署名活動をはじめとする行動に取り組んでいきます。

原子力の分野では、玄海原発でプルサーマルMOX燃料を装荷した発電が開始されました。六ヶ所再処理工場では、高レベル放射性廃棄物のガラス固化施設で白金族元素の影響という根本的な問題が顕在化し、完成時期が長期に延長されました。プルサーマルはウラン資源の節約効果はあまり期待できず、一方でプルトニウムを高次化させるという問題を指摘する意見があります。私たちは、原子力のあり方について、積極的に議論し、必要であれば提言を行なうなどの運動を進めることが求められています。

原子力機構の予算と人員の削減が続けられています。原研労組は、このままでは、必要な研究開発の実施も施設の維持や安全確保も危うくなると指摘してきました。事業仕分けでも高速炉研究開発を中心に、相当きつい意見が出されました。今の原子力のために、そして、これからの原子力のために、公的機関として何が必要なのかについて、真剣に考えなくてはなりません。最も重視すべきは、原子力利用の安全確保、安全性向上のための研究開発、試験、施設、人材の確保です。それさえ、不十分な状況になっているのではないのでしょうか。業務の進め方では、統合後、やたらと書類が増えたという声が多く聞かれます。書類の数や枚数で安全が確保できるわけではなく、成果が上がるわけではないことは、誰もがわかっていることです。業連により、決めたことを一方的に通知し行なわせるかのような、業務のやり方も横行しています。きちんと議論し、納得のいくように決めて実施するというやり方を大切にしないと、安全も成果も危うくなります。

問題が山積している状況の中で、労働組合として、職場を良くし、処遇を向上させるために運動してきました。これからも、組合員はもちろん、職員の声を集め、多くの労働組合と連帯しながら運動を進めていきます。組合員のみなさん、職員のみなさん、ご協力のほど、今年もよろしくお願ひいたします。

## 後期支部執行委員決定 (任期：2010.1.1～2010.6.30)

### 大洗支部

	委員長	
	副委員長 書記長	
	会計	

### 高崎支部

	委員長	
	副委員長 会計	
	書記長	

### 那珂支部

	委員長	
	書記長	

## 原研労組の新書記が内定しました。

昨年11月より中央委員と中央執行委員からなる新書記の選考委員会を重ねてきましたが、その結果、多数の応募者の中から1名の採用者が内定しました。就業開始は4月1日からとなります。皆様にご報告すると共にご協力に感謝いたします。

### 原研労組に加入し、安心して仕事をしましょう！

原子力機構に働くみなさん。ぜひ原研労組にご加入ください。  
職場の問題を一緒に改善させましょう。  
原研労の組合員のみなさま、まわりに組合に加入したいと思っている方はおりませんか。ぜひ声をかけていただき、原研労組へお誘いください。  
職場や社会の問題に、ともに力を合わせ解決していきましょう。

### 投稿

## 映画「沈まぬ太陽」を見て

日頃滅多に映画館まで足を運びませんが、たまには世間の話題に追いつくよう、映画「沈まぬ太陽」を鑑賞しました。

原作者の山崎豊子氏は、白い巨塔、華麗なる一族、不毛地帯、大地の子、そして今回の沈まぬ太陽など著名な作品を世に送り出しています。沈まぬ太陽はフィクションですが、某航空会社勤務の小倉寛太郎氏の経験を元に執筆されていることは、周知の事実です。他の登場人物もモデルが存在します。

沈まぬ太陽の関連情報はインターネット上に沢山存在しています。以下、私の感想です。

#### ・人間の弱さと強さ

神様でなければ全ての人間は恩地元と行天四郎の両面（ジキルとハイド）を持っており、環境や状況によって使い分けるでしょう。しかし恩地元は一貫して自分の信念を貫きました。一方、行天四郎は自らの内面に潜む二面性に苦しみます。沈まぬ太陽が反響を呼ぶ理由は、時に精神的に弱い面を露呈する一般人が恩地元の強さに惹かれるためでしょう。

#### ・時代と共に思想は変わる

戦時中は竹槍で本土決戦が正義であり、戦後は高度成長・日本列島改造が正当であり、バブル期は金儲けが憧れでした。時代と共に正しいと思われた思想は変わっていきます。終戦と共に大本営が瓦解し、高度成長期にわが世の春を謳歌した企業が今は無く、小倉氏が勤めていた企業の株価は100円を切り、青息吐息の状態です。男女平等、自由な発想の教育を受けた平成生まれの若い世代にとって、沈まぬ太陽で描かれる世界は理解不能でしょう。如何なる時も思想の多様性が確保されれば、日本や組織は正しい道を歩み、未来へ繋がるでしょう。ここに「原研労組の存在の意義」、「野党としての役割の重要性」があると思います。

研究者が数百万円の予算を獲得するために頭を捻って申請書を記述する一方、日本国内には数百～数千億円の事業費を使ったダム、橋、空港が多数あります。鉄筋数本の値段で研究者1人を雇えます。日本の税収が30～40兆円に対して借金は700～800兆円のため、事業仕分けにより科学技術の予算が削減されそうです。その原因は昭和の政治家に行天四郎が多過ぎたからでしょう。今年こそ良い年になることを祈ります。

ペンネーム：事業仕分けと科学技術

#### 【編集者より登場人物の補足説明】

・恩地元（労働組合委員長として労働者の待遇改善や「空の安全」を追及し続け、会社の懐柔に従わなかった。そのため、イラン、ケニアなどの海外勤務10年という冷遇を強いられたが、決して信念を曲げなかった。）

・行天四郎（労働組合副委員長として恩地とともに活動したが、労働組合を裏切り、会社の意向に沿って第2組合を作るなどの貢献により、出世コースを歩んだ。）